



市辺地区まちづくり協議会広報誌

いちのべ

# 万葉のまち 市辺

第45号

平成30年10月



平成30年 市民ふれあい運動会  
「息ぴったり、笑顔で切るゴールテープ」



発行:市辺地区まちづくり協議会 / 東近江市市辺町2391  
市辺コミュニティセンター内 TEL&FAX 050-5802-3392  
ホームページ 万葉のまち市辺 ichinobe.com

万葉のまち市辺

検索

# いつ起きても不思議ではない 南海トラフ地震

9月6日に発生した北海道胆振東部地震は、マグニチュード(M)6.7、最大震度7を記録し、大きな被害が出たのは記憶に新しいところですが、この地震の発生メカニズムはまだ明確になっていません。

繰り返し警戒を喚起される南海トラフ地震を始めとして、いつどんな地震が起きるかわからないことから、防災計画や備えもケース

バイケースであることが重要になってきます。私たちが暮らす市辺地区は、比較的自然災害が少ないと思われがちですが、根拠のない安堵感ではなく、普段から被災時のシュミレーションをすることによって、被害を最小限にする《減災》を考えることが、とても大切になってきます。今号は、市辺地区における減災の取り組みを特集しました。

## 減災のまちづくりプロジェクト

同プロジェクトは、まちづくり委員・自治会長・地域担当職員などで構成され、3年目を迎える今年度、8月に全体会議があり、9月から情報・組織・訓練の3部門に別れて実務会議が始まりました。

### ■情報

必要とされる情報の発信をするため、特に災害弱者(要配慮者)へ自助の伝え方や近隣住民との共助など、その内容や方法における広報活動の在り方を検討されています。

また、市辺地区では自主防災組織が4自治会で立ち上がっていないことから、設立の手助けになる内容の広報も目指されています。

### ■組織

自主防災組織が未設置の自治会から出された、設置を難しくしている課題を中心に意見交換が行われました。

立ち上げにおいては「完全な組織でなくて良いから窓口を作る思いで」といった意見があり、「自警



豪雨時の氾濫や決壊、地震による決壊が懸念される天井川の蛇砂川

団や消防団などの既存組織の活用で、住民の理解を深めていく」との具体案もあって、これからの設立に向けて積極的な発言が多く出されました。

### ■訓練

全国的に見ても、被災者の中で災害弱者とされる人の割合が多いことから、避難支援に役立つ訓練の在り方や、自主防災組織においてプライバシーの取扱い方などを中心に検討されています。

行政の災害弱者に対する避難計画なども参考にし、市辺地区として、先ず高齢世帯に対する「概要版のマニュアル」を作成することになりました。

## ・・・ 避難先を確認しましょう ・・・

「いざ」という時にあわてないよう、日頃からお住いの近くの避難場所と避難所をいくつか確認し、避難経路についても家庭や地域で話し合い、共有しておきましょう。

東近江市指定避難所：東近江市ホームページより転載

避難所施設名	所在地	福祉	大雨	地震
船岡中学校	市辺町	○	○	○
市辺コミュニティセンター	市辺町	—	○	○
あかね幼稚園	三津屋町	—	○	○
びわこ学院大学・同短期大学	布施町	—	○	○

### ◆一時集合場所

地震などの突発的災害による建物倒壊や火災から身の安全を守る場所。近隣住民が安否の確認を行う場所として、公園などのオープンスペースを自治会などが指定しています。

### ◆指定避難所

災害時に自宅などが危険な状況、または自宅での生活が困難な状況になった場合に備え、一時的に避難する施設、一定期間避難生活を送る施設として、公共の施設を指定しています。

### ◆地域福祉避難所

表中「福祉」欄に○のある施設は、要配慮者(高齢者、障害者、乳幼児など災害時に特に配慮を要する人)を優先する地域福祉避難所です。

## 東近江市まちづくり協議会 交流会開催される

7月14日(土)平成30年度 東近江市内まちづくり協議会交流会がアピアホールで開催され、134名(内担当職員43名)が参加され市辺まち協から須田会長他8名が出席しました。交流会は「各地区の取組について互いに学び磨き合う」「地域担当職員も一緒に今後の活動につなげていこう」を目的に毎年開催されています。

午後2時に開会され、須田会長の挨拶、来賓の小椋東近江市長から祝辞を受け、つづいて「まちづくり自慢大会」の発表が7地区のまち協から行われました。中野地区は、だれでも参加できる「毎月7日の円卓会議」の取組、五個荘地区からは「中山道灯り道」の取組、玉緒地区は「里山を次の世代へ引き継ぐ」

取組など、能登川・八日市・蒲生地区からも豊かな内容の発表がありました。

市辺地区からは「減災のまちづくり」をテーマにしたプロジェクトチームが編成されたことから、榎木副会長がスライドを使って、取り組みの「背景」「体制と展望」「住民の意識調査」



「結果の分析」など分かり易く発表されました。

各地区の発表を受けて、コーディネーターの川北秀人氏(人と組織と地球のための国際研究所代表)から講評とアドバイスがあり、終了しました。

# 市の花ムラサキで地域おこし

「茜さす紫野行き標野行き・・・」万葉集に名高い額田王と大海人皇子の相聞歌が蒲生野遊獵の際に詠まれてから今年には1350年になるのを記念して、7月22日(日)市辺コミュニティセンターにて前川真司さん(株式会社みんなの奥永源寺代表取締役)に講演いただきました。

前川さんは地域おこし協力隊として奥永源寺の君ヶ畑町で平成26年から3年間絶滅危惧種ムラサキを栽培され、地域おこし協力隊の任期終了後は株式会社「みんなの奥永源寺」を設立され、今年4月26日にムラサキの根「紫根」を使った化粧品の販売を開始されました。

講演では、学ばれた東近江市の歴史や自然、文化などについて詳しく話され、宝塚



前川 真司 氏

市出身である前川さんは蒲生野遊獵にまつわる話として、宝塚歌劇団が「あかねさす紫の花」という演目で上演され人気を博したことなど、地元市民である私たちが知らなかったことも教



## 歴史・文化部

えてくださいました。

子どもたちも含めた約30名の参加者は熱心に聞き入り、改めてムラサキを介した東近江市や蒲生野ゆかりの豊かな歴史文化を学び「とても面白かった」との感想もあって、一層の関心を深められました。

## 第6回「蒲生野万葉短歌会」 1,450首の応募

10月28日(日)に行われる「いちのべ万葉フェスタ」に向けて取り組まれている「蒲生野万葉短歌会」も6回目を迎え、全国から1,450首の応募がありました。

今回の応募は、一般の部では、東近江市内、滋賀県内はもとより北海道、青森、山形、茨城、埼玉、東京、岐阜、奈良、和歌山、香川の41人から90首が寄せられています。

また、学校関係からは、小学校の部は、東近江市内12校の257人から434首が寄せられ、中学校の部は、7校588人から926首の応募を頂きました。

いちのべ万葉フェスタでは、一般の部は、蒲生野大賞、紫野賞、標野賞、佳作6首が選ばれ、中学校の部、小学校の部は、それぞれ優秀賞、いちのん賞、いちのべ賞、佳作3首の入選者が表彰されます。また、蒲生野大賞などに入選した短歌は、万葉フェスタ会場において、あかね会の皆さんにより朗詠される予定です。

# このまち「この人」

日本舞踊 野口町 松下 静枝さん

秋晴れの日、松下静枝さん宅を訪問し、素晴らしい話を伺いました。

50歳を過ぎた頃、職場の先輩から誘われたのが日本舞踊に出会うきっかけでした。しかし、仕事の忙しさや転勤等により、充分練習に集中することが出来ずブランクがありました。55歳で退職後、大阪の若柳幸志郎師匠に八日市で師事させて頂ける機会に恵まれ、現在も月4回レッスンを重ねておられるとのこと。

また、市辺地区老人クラブ(ふれあい部会)日本舞踊サークル「スマイル」の指導や鍛錬に励んでおられます。俳句や書道も趣味として活動され、多芸多才ぶりは羨ましい限りです。



日赤奉仕団市辺分団長や社会福祉給食ボランティアなど他にも社会貢献ボランティア活動に多忙な日々を送られています。

最後に、今まで継続できたのも、ご主人の理解と協力があっての事と感謝の言葉を聞きました。

今後も元気で活躍されますよう応援しています。



# よつてみて<sup>カフェ</sup>cafe「こぼし」 よつてみて!!

西市辺地先に高齢者福祉施設「こぼしの家」があります。この施設は高齢者のための入所施設で、あわせて短期入所(ショートステイ)・デイサービスなどの事業をされています。



「こぼしの家」では、地域に何か貢献できることはないかと検討されました。それは高齢者のための施設で専門のスタッフがおられて、いろいろ相談できてワイワイガヤガヤお喋りできる場、またみなさんの心と

体の健康を保つ手助けとして、よつてみてcafe「こぼし」を提案されました。市辺地区住民福祉計画推進会議でも、このような趣旨に賛同し共催させていただいております。

現在のところ、月1回・第4土曜日・午後1時30分から3時過ぎまで・参加費1000円、で7月からオープンしました。どなたでも参加できます。

「こぼしの家」の小泉施設長や生活相談員の職員と、市辺地区住民福祉活動計画推進会議のメンバーがスタッフとしてお手伝いしています。是非みなさんの参加をお待ちしています。



市辺地区住民福祉計画推進会議 代表 平尾 弥一



## 自然・環境部

日照り・長雨・台風などの自然災害による極端な天候に振り回されながらも和やかに活動しています。天候や状態を見ての急な招集にかかわらず、快く参加される皆さんに感謝です。

主な事業予定

- 10月12日(金) いも掘り・収穫祭
- 15日(月) 上記予定の予備日
- 11月24日(土) 豆腐作り
- 12月上旬 コラボ村参加
- 2月上旬 見学研修
- 下旬 サニーレタス苗の配布

## 健康・福祉部

8月19日に天然酵母パン教室を行いました。当初16名の申込みでしたが10名の参加になりました。「酵母づくりがおもしろい」「不思議やなあ〜」「何度か参加して作り方が解った」「これで自慢のパンが作れる」との声をいただきました。

10月28日(日)の万葉フェスタでは「腸が喜ぶパン」と「機能水を使った無農薬コーヒー」を販売しますので、お楽しみに！

11月24日(土)には、マクロビオティック食育料理教室を行います。予定レシピは、酵素玄米・豆腐・グルテンミートの磯部揚げ・ごぼうの味噌煮・味噌汁など。またミニ講座として予防の観点から「マクロビオティックから見た認知症」を行います。11月10日頃に案内をしますので、参加をお待ちします。

## 歴史・文化部

今年は、各町からご協力いただいた「虫送り」のビデオ撮影も無事終了し、年明けには「試写会」を開催できる段階に入っています。

さて、今年の下期の行事予定は、“御代参街道を歩こう”を3年で計画し、1年目の今年は11月18日(日)に「五個荘小幡〜今堀」(約9km)を予定しています。詳しくは、後日「チラシ」を配付します。

次に、地域の歴史・文化、郷土や社会に貢献した先人に興味をもつていただくため、「古文書を読む」と題した講演を来年2月ごろ予定していますので、双方とも皆さんの参加を心よりお待ちしております。

なお、御代参街道の2年目は「今堀〜石原(日野町)」3年目は「石原〜土山」の計画です。

## 地域活力部

ムラサキは連作を嫌うことから、来年の植栽地を探しています。場所は従来どおり、船岡山公園です。

- 6月26日午後 来年度植栽地調査  
ムラサキ6株開花していました。
- 7月11日午後 来年度植栽地調査  
ムラサキ10株開花していました。
- 8月1日午後 来年度植栽地調査  
ムラサキ全部枯れていました。
- 9月4日 午後 来年度植栽地調査
- 11月 来年度の植栽地の整備作業を予定しています。

## 安全・安心部

夏期の防犯パトロールに参加しました。年末の防犯パトロールにも参加を予定しています。

また、「減災のまちづくりプロジェクト」に参加させていただく中で、地震等の災害発生時に役立つものとして「身近なもので手作りできる代用品」を試作検討しています。それらの一部を万葉フェスタの際に展示等で紹介させていただこうと考えています。同時に非常食(塩おにぎり)の調理や試食等も企画しておりますので是非とも気軽にお立ち寄り下さい。

## 子ども健全育成部

今年度、万葉フェスタの日に、その中の一つの催しとして、凧づくりをしたいと思えます。自分の手で物を作る大切さ、またその喜びを感じてほしいと思っています。

日時：10月28日(日) 10時半から正午まで

場所：万葉フェスタ会場

大風会館から、鳥居先生をお迎えして教えていただきます。凧は、子ども健全育成部より、来ていただいた皆様にプレゼントします。



今年で西国三十三所は草創1300年の記念の年という事で巡礼のお参りをしました。記念の特別オリジナル御朱印を頂けるとあって、どの寺院も多くの方がお参りされています。駐車場から近くにある寺院や、巡礼屈指の難所の寺院もあり、お参りのあと境内から見る絶景は、癒しのスポットでした。また、各寺院においては秘仏などの特別公開もあるそうです。

平成最後の夏、ゲリラ豪雨に続き連日の猛暑、台風や地震など色々な自然災害がありました。心のより所となるかと思えますので、この機会に一度お参りされてはいかがですか。(M・H)